





目標：生きもののいっぱい

子どもたちの遊び声が聞こえる楽校づくり



相模川で唯一の水辺の楽校

自慢は広がる大空と原っぱ

草茫々で、なんだ何もないやと思うかもしれないが、
一歩踏み込むと
バッタやチョウが飛び出してくる
子どもたちにとって
面白いと思えることがいっぱい詰まっている！

広さ 7 ha

生命が躍動しています



多様な自然があるから、いろんなことが楽しめる！



活動26年目 いろんなことを楽しんでいます！

- 催し回数60回余
- 環境学習活動20種余
- 生物多様性保全活動
 - ウナギの棲む川づくり
 - (石倉カゴの設置と調査)
 - カヤネズミの生息地保全
 - 生きもの広場づくり
- イベント
 - 湘南ピクニック土手の下のSDGs
 - 2025年11月(参加者数500人)
- 会員主導の取り組み
 - バタフライガーデンづくり
 - 馬入写真楽校、写真展、展示会
- 2024年度参加者数 2,116人
- 会員数60家族 122人(2026年1月現在)





【受賞歴】

2015年度：神奈川ボランティア活動奨励賞

2016年度：神奈川県地球環境賞

2017年度：国連生物多様性の10年日本委員会(UNDB-J)

生物多様性アクション大賞（入賞）

2018年度：第12回かながわこども子育て支援大賞（奨励賞）

2019年度：令和元年度地域環境保全功労者（環境大臣賞）

2020年度：安藤スポーツ・食文化振興財団

トム・ソーヤースクール企画コンテスト安藤百福賞

2020年度：神奈川新聞社・地域社会事業賞

2022年度：2021年度河川財団

河川基金助成事業「川づくり団体部門」（国土交通大臣賞）

2024年度：第13回毎日新聞社 毎日地球未来賞一般の部（大賞）

2024年度：手づくり郷土（ふるさと）賞（国土交通大臣賞）

でも、いろんな課題が！

◆運営体制側面

- NPO経営が確立されていない
 - 属人的組織
 - オールボランティア体制
 - スタッフの高齢化、後継者不足
 - 専従職員が雇用できていない
 - 資金不足
- NPO、企業、行政との連携不足

◆環境教育側面

- レンジャーが常駐していない
- 学校との連携不足

◆自然環境側面

- 環境管理計画が策定されていない
- クズ、ノイバラ、竹の除草等、管理が行き届かない
- 外来種問題
- 風車の老朽化
カエル池の修繕

活動継続が最大の課題

色々悩んで、気がつきました

- ◆私たちの楽校ではなく、市民の楽校にしなければ……

市民による市民のための水辺の楽校づくりが必要

市民にとって必要な場所になれば活路が開ける

今、持っている力で、できることは……

馬入水辺の楽校をフィールドミュージアムに育てる

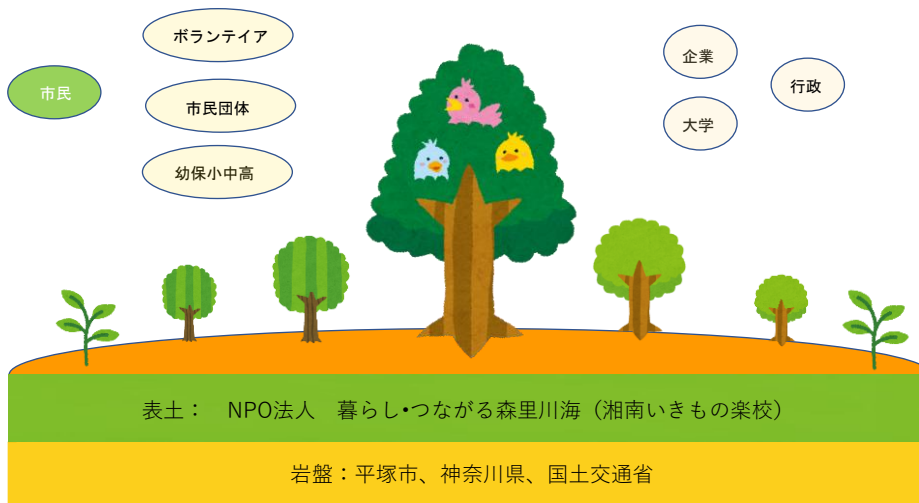
地域の環境学習活動の拠点、情報発信基地に育てる

フィールドミュージアム化構想（自然生態園）



官民連携！みんなでつくるフィールドミュージアム

湘南いきもの楽校の役割
表土を耕し、良い土壌をつくります



思いの共有化＝同じ主語を持つ

■市民による市民のための水辺の楽校づくり

水辺の楽校の理念や運営ルールに基づき、多様な団体が集まり、自分たちのしたいことを実施する。それにより、多くの市民が集まる。市民の楽校になる。そこを理想に前に進みます。

■共創のパートナーシップ＝ネットワークづくり

社会問題が複雑化している現在、一隅を照らすだけでは問題は解決しない。NPO、企業、行政が一体となり、サステイナブルな街づくり運動が必要。自然との触れ合いを基軸に、食、文化、伝統など、魅力ある地域づくりを進めていきたい。

市民参加の街づくり

- バタフライガーデンづくり
- 馬入写真楽校



- イベント湘南ピクニック土手下のSDGs地域の催しとして発展させて行きたい！



メッセージを発信続けていく

- 共創による街づくり
生態系の健全性を基軸に地域との新しいつながりをつくる
- 見える化（モデルづくり）＝フィールドミュージアム化
- メッセージを地域に伝える
イベント展開、HP等の活用など

